

学習内容報告書

学校名	姫路市立豊富小中学校
授業者	第5学年（坪田亜希子・釜坂浩輝・川村かおり・松本大樹・堀亮介）

1. 単元計画

1-1. 単元名

世界とつながる播磨の海と私たちの食

1-2. 学年

第5学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

国語科，社会科，理科，家庭科，道徳

1-4. 単元の概要

- ・海洋ごみの問題点や解決策，および私たちの生活との関係を探究する学習
- ・地球温暖化と海洋，および私たちの生活との関係を探究する学習
- ・SDGs 14「海の豊かさを守ろう」の理解を深めるための学習

1-5. 単元設定の理由・ねらい

私たちの生活と海とは密接なつながりがあることについて学習し，海の恵みに感謝するとともに，自分たちの暮らし方について責任をもち，よりよい価値判断・意思決定をする素地を養う。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・選んだテーマや疑問について調査し，分かったことを新聞にまとめ発表することができる力。
- ・持続可能な社会を実現するための行動について皆に提案することができる力。
- ・海の恵みや命について感謝する態度。

1-7.単元の展開（全 20 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導/主な評価 外部連携/使用教材等
1	アンケート実施	海洋問題についての知識や経験をたずねた。
2	アンケートの結果発表 ・集計結果を見ながら気づいたことを話し合った	集計結果を紹介したり，主な意見を紹介したりした。
3	・エピソードの出し合い	
4	紙芝居を鑑賞	『海と空の約束』（著者 西村寛さん） ㊦私たちの生活と海とのつながりに気づく。
5	ウミガメ教室	市政出前講座（講師 姫路市立水族館 長久健さん） ㊦我々の努力で海を守る必要があることに気づく。
6	ウミガメ教室の感想交流	テーマごとにグループ分け（新聞アプリ「ことまど」）
7	選んだテーマについてグループに分かれ、	持続可能な社会の実現に向けて，グループでポスターセッションの時間を設けた。 新聞のレイアウトや記事の書き方について相談に乗ったり助言したりした。
8	調べ学習を実施	
9	（書籍，新聞，インターネット）	
10	↓	
11	新聞づくり	
12	「ことまど新聞」で海の現状や海のために	
13	できることなど，みんなに知らせたいこと	
14	について一人1記事を担当し，新聞を作った。（グループで1枚新聞が完成）	
15	新聞発表（ワークショップ形式で報告会）	質問・感想の交流を支援した。
16		
17	「海の恵み教室」	講師 西谷寛さん（海と空の約束プロジェクト） ㊦食や食習慣を中心に，我々の生活が海から多くの恵みをいただいていることに気づく。
18		
19	「地元の魚をさばいて食べよう」事業	姫路市水産漁港課・兵庫県漁業協同組合 ㊦これまでの学習を思い出しながら，「命をいただく」ということ，守り伝えるべきこと，について思いを新たにし，自分にできることを実行しようという意欲を高める。
20	アジをさばき，ソテーにして食べた。	

2.学習活動の実際

2-1.単元における位置づけ

単元 20 時間中の 17・18 時間目

2-2.本時の目標

海からの豊かな恵みについて知り、我々の努力で守る必要があることに気づく。

2-3.本時の展開

主な学習活動/反応	教師の指導・支援/評価の視点
<p>1. 講師紹介</p> <p>2. 講話を聴く</p>  <p>3. 質問する</p> <ul style="list-style-type: none">・環境省とはどんな仕事をするところですか。・西谷さんが地球環境のことを知ろうと思ったきっかけを教えてください。・森や農地や緑地が大切なのは分かりましたが、もっと詳しく教えてください。・災害などで海に流出したものが遠くまで運ばれることをニュースで知りましたが、どうやってそれらを処理するのですか。・タンカーから流出した油の回収はどうやって行うのですか。 <p>4. 感想をまとめる</p>	<p>教師の指導・支援/評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none">・第4時間目に学習した紙芝居の内容を想起させることで、海には課題だけでなく豊かな恵みをもたらすものであることにつなげる。・ワークシートに記録しながら聞くように促す。   <p>海からの恵みに感謝するとともに、海を守るために自分にできることについて、意識を新たにする。 (質問・ワークシート)</p>

3.今回の活動の自己評価

- ・計画的に実施できたため、児童の思考が深まっていくのを感じた。
- ・外部講師との連携ができ、講話内容と授業内容・児童の実態を合わせることができた。
- ・国語の授業に合わせてポスターセッションを設けたり、社会の漁業の学習との関連を図ったりするなど、教科横断的に実施することができた。
- ・学校司書と連携し、十分な量の関連書籍を用意することができた。

4.今後の課題

- ・実際に海に行く校外学習ができない中での実施だったので、ぜひ次年度は自然学校とも絡めた体験学習とつなげていきたい。
- ・学習のまとめとして1人1台コンピュータと新聞アプリを活用して新聞を作成した。著作権に関する学習や不十分だったこと・インターネットでの検索に適切なキーワードを選ぶこと・タイピングスキルを向上するなど、探究したことをまとめて伝えるための基礎スキルを高めていきたい。

5.本学習内容報告書活用にあたっての留意点

今回の活動をまとめたリーフレット「うつくしい水を未来へ」を作成しました。本報告書と併せて活用頂ければと思います。